

国鉄 EF58形電気機関車 形式図

1946年から各メーカーで大量に生産された戦後の日本の代表的な電気機関車
 最初は戦前のF形機を踏襲したデッキ付で現れたが、1951年に思い切った設計変更が施され、
 流線型車体、暖房用蒸気発生装置内蔵の機関車に生まれ変わった
 図は旧型として製造中のものを途中で設計変更して完成した EF5835,36で他とは側面の
 窓の数や配置が違う
 すでに旧型として就役したグループは車体をEF13にゆずり、新車体を付けて再登場したので
 以後のグループと外観上の大きな相違はない
 しかし172輛にわたる大所帯で、正面窓や、先台車などに変化があり、お召し列車用として
 特製された EF5860,61には、側面に通しの飾り帯が付いている
 塗色も栗色が大部分を占めるが、東海道全線電化当時の特急用薄緑色や、ブルートレイン
 にあわせたものがある

